

歯科 口腔外科

唾石を口腔内から摘出する新しい手術方法の開発

先端
医療

歯科口腔外科 部長 斎藤 健一

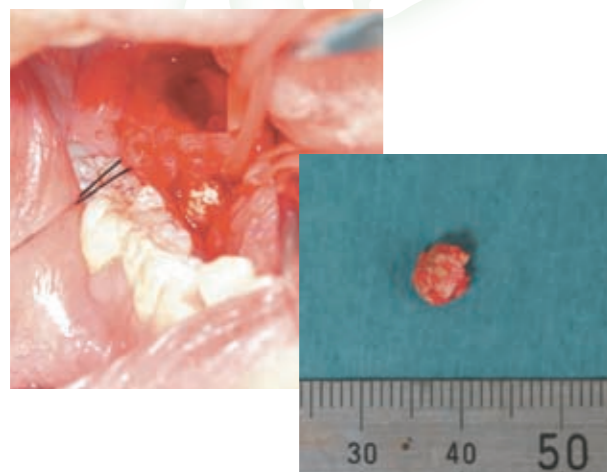
唾石とは？

身体の中の分泌や排泄に関連した臓器には、しばしばカルシウムなどが沈着した硬い組織が作られます。胆石や尿路結石は耳にした人も多いと思いますが、唾液腺にできたものは唾石と呼ばれます。唾液腺には耳下腺、顎下腺と舌下腺がありますが、ほとんどの唾石は顎下腺にできます。この理由は、顎下腺から出る唾液は耳下腺の唾液に比べて粘性が高いこと、唾液の排泄管が長いことなどが考えられています。顎下腺に生じた唾石の症状は、食事時の顎下部の腫脹や疼痛です。

この痛みは唾液が出ようとする時に、唾石がちょうど栓のような役目をするため、顎下腺内部の圧が上がり、特有の強い痛み（唾疝痛（だせんつう）と呼ばれます）になります。唾石の治療法は現在のところ、薬や破碎などの療法はなく、手術で切除するのが一般的です。

唾石を取り出す新しい手術方法

唾石を取り出す方法としては、口の中から唾石だけを取り出す方法（口内法）と、顎の下の皮



唾石



膚を約 5、6cm 切開して顎下腺そのものを取り出す方法があります。唾石が深部に存在している場合には、大体どの施設でも顎下腺の摘出が行われますが、特に若い女性にとっては、皮膚に傷がつくことは大きな問題です。また、外からの方法では下口唇の運動に関わる顔面神経の枝を損傷する可能性もあります。口内法にも、舌神経麻痺（しびれなど）を起こす可能性があります。舌神経は太いため容易に見つかり、神経を保護する操作がしやすいこと、皮膚に傷がつかないという利点があります。

このような背景から、私は深部の唾石でも口腔内から安全に取り出す手術法を考案し、その方法を昨年 8 月から施行しています。

平成 19 年 3 月まで 16 人の患者さんにこの方法を適用し、全例完全摘出を行い、神経障害（手術直後の一時的なもの除く）などはありませんでした。当科では、これからも唾石症の患者さんにこの方法を積極的に取り入れていく予定です。

小児科

子どもたちやご家族の強い味方に

各科
紹介

小児科 部長 渋谷 紀子

小児科をとりまく環境

少子高齢化が世の中の話になって久しく、最近は小児科医や産科医の不足が声高に叫ばれるようになりました。小児医療をとりまく社会環境は大きく変化しつつありますが、いつの時代でも子どもは病気になりますし、ご家族の心配が少なくなるわけではありません。未来を担う子どもたちを守るのは、社会的責任といえるでしょう。

私たち関東病院の小児科スタッフは、少人数ではありますが、大切な子どもたちや、子育てをしているご家族の強い味方でありたいと思っています。子どもの健全な成長のためには、お父さんやお母さんなどご家族が安心して育児を楽しめる環境が大切です。そうした環境づくりを、小児科もお手伝いできればと思っています。

当院小児科の特徴

1. 一般外来

かつてのような重症な感染症は減少してきていますが、子どもの病気はご家族にとって大問題です。また、近年働く女性が増え、保育園などの集団生活が早期から始められることが多いため、年齢が小さいお子さんも病院を受診する機会が多くなりました。一般外来では小児のさまざまな疾患を取り扱っていますが、お子さんの様子を細かく聞いて、丁寧に診断し、病気の詳しい説明と適切な治療をすることを心がけています。当院にかかりつけの患者さんにつきましては、日曜の午前中に急な発熱などのための診察時間を設けていますので、お問い合わせください。

2. 乳幼児健診と予防接種

当院で出生されたお子さんはもちろん、他院で出生のお子さんも、当院で乳幼児健診を受けることができます。身長・体重などからだが順

調に育っているか、お座りしたり、一人で歩いたりという発達がきちんと進んでいるかなどの評価をするだけでなく、ご家族がお子さんを育てる上で疑問に思っていること、不安に感じていることなどの相談も行っています。健診および予防接種は、東京都 23 区の公費負担制度がご利用いただけますのでお問い合わせください。

3. 特殊専門外来

専門的な診断治療を必要とする小児疾患に対し、特殊外来を設けています。アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギーなど、近年多くの子どもを悩ませているアレルギー疾患の診断治療には特に力を入れておりますので、ぜひアレルギー外来にご相談ください。

そのほかに、先天性心疾患や不整脈、川崎病などを扱う心臓外来、けいれん性疾患や発達の異常などを扱う神経発達外来のほか、子どもの心や行動の問題に対するカウンセリングを担当する精神衛生外来があります。

スタッフ紹介

明るくやさしく美しい(?) スタッフがそろっています。チームワーク抜群の 3 人の女性医師と、子どもが大好きな看護師やクラークが温かく迎えてくれるはず。和気あいあいとした中でも、より良質で安全な医療を常に目指しています。

